

海津市公共交通における現状把握のまとめ

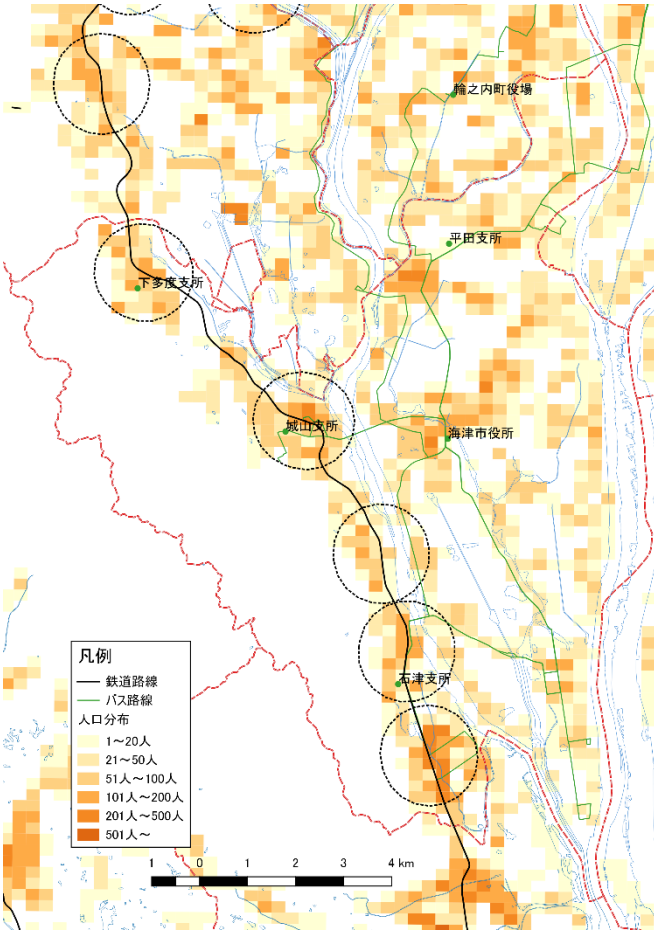
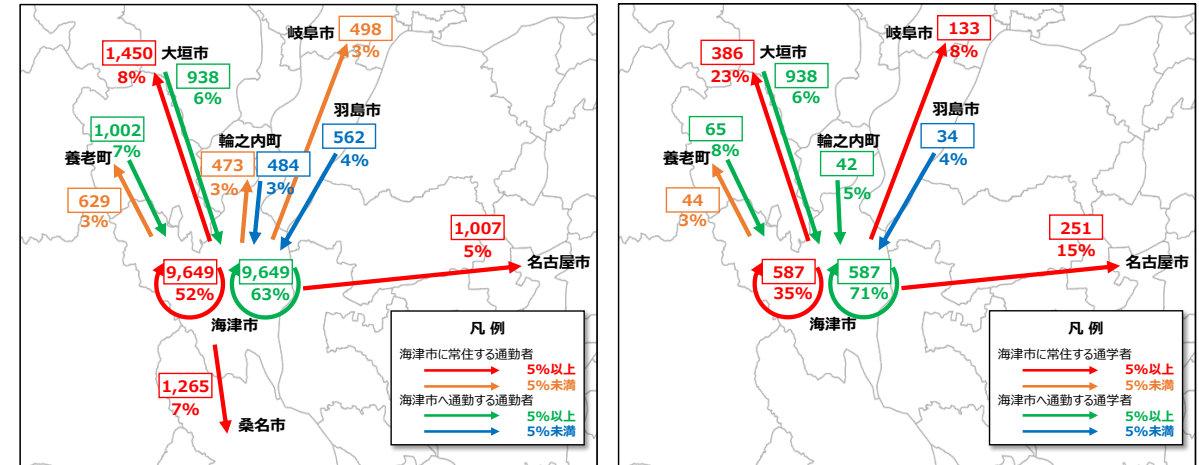
★各種調査結果（青字で表示）及び既往のデータ分析結果を取りまとめ

1.人口動態の現状

- 海津市の65歳以上の人口は10,246人、高齢化率(65歳以上の割合)は29.1%【平成27年国勢調査結果】
- 2045年には総人口は18,339人まで減少し、高齢化率は49.3%まで増加するとされており、65歳以上の人口は9,032人まで減少【国立社会保障・人口問題研究所の推計結果】
- 海津市の人口は、揖斐川左岸の旧海津町・旧平田町でそれぞれ高須地区・今尾地区に、揖斐川右岸の旧南濃町で養老鉄道の駅周辺に集中しており、その他の地域では、概ね低密度に分散【右図参照】

2.流動の現状

- 海津市民の就業者の48%は市外が就業地【平成27年国勢調査結果】【下図参照】
- 市外への通勤が多い地区は以下の通り【住民アンケート結果より】
海西地区：大垣市・羽島市、下多度地区：大垣市
石津地区：桑名市・名古屋市
- 海津市民の15歳以上の通学者のうち、市内を通学地としているのは35%で、多くが近隣市町へ通学【平成27年国勢調査結果より】【下図参照】
- 逆に、市外から海津市への通学者は29%
- 市外への通学先は西濃地方の大垣市他、羽島市・岐阜市方面、さらには県外の名古屋市への通学者もあり
- 買い物や通院においても、市外への移動が多い【住民アンケート結果より】
買物：オークワ養老店、ザ・ビッグ輪之内店等
病院：大垣市民病院等
- 他県境に近い吉里、東江、大江、西江の各地区では、岐阜県外への移動ニーズが高い【住民意見交換会より】
吉里・東江地区：愛知県津島市・愛西市
大江・西江地区：愛知県愛西市・弥富市、三重県桑名市



3.養老鉄道の現状

- 揖斐川東岸の海津町・平田町の居住者もしくは目的地とする来訪者であっても、揖斐川西岸の養老鉄道の利用が一定数あり【養老鉄道駅ヒアリング結果】
- 養老鉄道を利用する条件として、約37%が駅の駐車場が拡充されればと回答【市民アンケートより】

4.定時定路線バスの現状

- コミュニティバスにおいて、海津市役所以北（海津羽島線・お千代保稲荷線）と海津市役所以南（海津羽島線・南幹線）において、1便あたりの利用者数に大きな差【コミュニティバス乗降データより】
海津市役所以北：夜間を除いて1便あたり3.0人以上の乗車
海津市役所以南：37便中26便が1便あたり2.0人未満の乗車

- 海津市役所以南では海津羽島線と南幹線のダイヤが重複（37便中、運行間隔が30分未満のケースが12ケース）【コミュニティバス乗降データより】
- 南幹線は駒野駅、石津駅の両方で養老鉄道に結節し、一方の駅の接続を考慮してダイヤを設定すると、もう一方の駅での接続時間が長くなる
- 名阪近鉄バス海津線は平田町の今尾発着が過半数を占め、バス停までの移動手段における徒歩利用の割合が少ない一方、コミュニティバス今尾バス停とは距離が離れている【車内バス調査結果より】【右図参照】



5.デマンド交通の現状

- 早い段階での予約により特定の利用者が占有し、他の市民の予約が取りづらい状況あるとの不満あり【住民意見交換会より】
- 特定利用者の予約回数が多い（年間400回以上は19人）【デマンド交通予約記録より】
- 1運行あたり平均乗車人数は1.88人【デマンド交通予約記録より】
- デマンド交通の利用者1人あたり負担額がコミュニティバスに比べて高い【上表参照】

路線名	市負担額	延べ年間利用回数	利用1回あたり市負担額
コミュニティバス	約5,380万円	80,297回	約670円/回
デマンド交通	約4,100万円	19,758回	約2,080円/回

6.市民の公共交通に関する意識

- 市民の約50%が、海津市の交通機関について不満あり【住民アンケート結果より】

※）平成22年の市民アンケートでは「公共交通機関（電車・バス）の便利さ」について不満と回答した市民の割合は59.1%
※）現行の海津市公共交通計画では、平成31年度に上記数値を20.0%にしている
- 住民主導で日常の移動手段を確保する方法に言及する意見あり【住民意見交換会より】
- 地区の社会福祉協議会と連携すべきとの意見あり【住民意見交換会より】